

芸術家たちの南仏

Rendez-vous dans le Midi



貸出図版 1.
アンリ・マティス
《ミモザ》1949年
切り紙絵（コラージュ）151.3×93cm
池田20世紀美術館

会 期	2023年3月11日(土) – 6月18日(日)
開館時間	9:30-17:00（入館は16:30まで）
休 館 日	月曜
入 館 料	一般1,800円、学生・65歳以上1,600円、高校生以下無料 障害者手帳をお持ちの方と付き添い1名まで無料
会 場	DIC川村記念美術館（千葉県佐倉市坂戸631）
電 話	掲載用＝050-5541-8600（ハローダイヤル）取材用＝043-498-2672（直通）
主 催	DIC株式会社
企画協力	株式会社キュレーターズ
後 援	千葉県、千葉県教育委員会、佐倉市、佐倉市教育委員会

概要

南仏は、かつて芸術家が景勝地や巨匠たちの作品を求めてパリからイタリアへ留学や旅行する際などの中継地とみなされていました。しかし 19 世紀末以降、ヴァンスやニース、マルセイユをはじめ、多くの芸術家たちがその地を制作の場として選んだのです。

地中海や山々に囲まれた豊かな自然、そしてまばゆい光は芸術家たちを惹きつけ、ときには陶芸などその地に根差す伝統的な技法が創作意欲を刺激することもありました。終焉の地として根を下ろした者たちが、壁画や礼拝堂など集大成ともいえる大仕事を手がけたことも知られています。一方で、戦中には敵性外国人として収容された者たちや、港を目指した他国への亡命者が、作品を生み出した場であったことも忘れてはなりません。

本展では、20世紀において芸術が展開した場としての南仏に注目し、その地で広がりをもせた交流や、表現あるいは技法について、国内の美術館などが所蔵する約30作家の作品と関連資料およそ150点を通してご紹介します。

貸出図版 2.
アンドレ・ドラ
《パノラマ（プロヴァンス風景）》1930年頃
油彩、カンヴァス 80×179cm
ひろしま美術館



出品作家

ジャン・アルプ、ハンス・ベルメール、ポール・セザンヌ、マルク・シャガール、ソニア・ドローネー、アンドレ・ドラ、ラウル・デュフィ、マックス・エルンスト、フェルナン・レジェ、アンリ・マティス、パブロ・ピカソ、ヴォルスほか

※会期中に一部展示替えがあります（前期：3/11-4/30 後期：5/2-6/18）

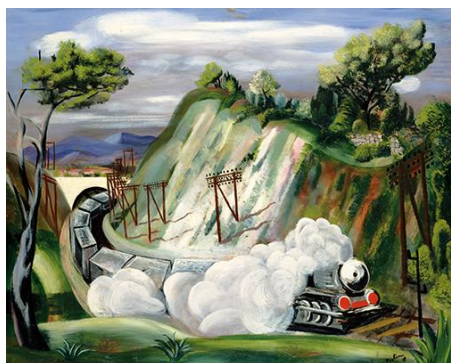
みどころ

1. パリから1,000km、南仏への列車旅に思いを馳せるプロローグ

フランスでは19世紀に鉄道網が発達し、ヨーロッパ北部の人々が避寒のため地中海沿岸地域へ旅行するようになりました。会場入り口では、初期映画の生みの親であるリュミエール兄弟が南仏で撮影した『ラ・シオタ駅への列車の到着』（1895年）を上映します。これは、公開当時、人々を驚かせたと言われる作品です。また、第一室に展示される、キスリングの《風景、パリーニース間の汽車》（1926年）には豪華列車「ブルー・トレイン（トラン・ブル）」が描かれています。映像作品と油彩作品の列車に誘われ、南仏への旅が始まります。



パブロ・ピカソ
《女のランプ》1955年
轆轤成形の花瓶 35×19.5cm
Kanzan gallery
* 貸出図版ではありません



左) 貸出図版 3.
キスリング
《風景、バリーニース間の汽車》1926年
油彩、カンヴァス 80.7×100.2cm
ポーラ美術館

右) 貸出図版 4.
アンリ・マティス
《待つ》1921-22年
油彩、カンヴァス 61×50cm
愛知県美術館

2. 南仏に行かざるを得なかった芸術家たち

第二次世界大戦中の南仏には、「敵性外国人」として収容されたドイツ人の芸術家たちや、フランスのドイツ降伏を受けて他国への亡命をめざし、ビザ発給を待っていたシュルレアリストたちが、否応なく集うことになりました。本展では、そうした状況で生まれた作品を展示することで、南仏としばしば結びつけられる温かなイメージとは異なる面もご紹介します。



左) 貸出図版 5. ソニア・ドローネー《色彩のリズム》1953年 油彩、カンヴァス 100×220cm ふくやま美術館 DR

中) 貸出図版 6. ジャン・アルプ《地中海群像》1941/1965年 大理石 78.1×93.8×53.6cm 東京国立近代美術館

© VG BILD-KUNST, Bonn & JASPAR, Tokyo, 2022 G3078 *紙媒体のみご利用いただけます

右) 貸出図版 7. マン・レイ『骰子城の秘密』1929年 16mm フィルム 24分 神戸映画資料館

© MAN RAY 2015 TRUST / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2022 G3078 *紙媒体のみご利用いただけます

3. 南仏で育まれたモダン・アートの多様性を俯瞰できる、国内初の展覧会

20世紀フランスにおいて、南仏は制作の場、芸術家間の交流の場、あるいはその地域の職人と芸術家との協働の場として重要性を高めてゆきました。そこで生まれた作品は写実的な風景画にとどまらず、セザンヌに影響を受けた若い芸術家たちが展開したフォーヴィスムやキュビズムなど実験的な油彩画をはじめ、版画、彫刻、陶芸、映画、そして切り紙やタピスリーと多岐にわたります。また、晩年南仏を拠点とした芸術家たちは礼拝堂装飾や壁画など集大成ともいえるモニュメンタルな仕事も手がけました。本展は、このように多様性に富んだ作品群を俯瞰する貴重な機会となります。



左) 貸出図版 8. ポール・セザンヌ《マルセイユ湾、レスタック近郊のサンタンリ村を望む》1877-79年 油彩、カンヴァス 64.5×80.2cm
吉野石膏コレクション（山形美術館に寄託）

中) 貸出図版 9. フェルナン・レジェ《コンポジション》1952年 陶板レリーフ 44.4×34cm 公益財団法人大川美術館

右) 貸出図版 10. マルク・シャガール《青い夜》1969年 タピスリー 206×270cm 川島織物文化館
© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2022, Chagall® G3078 *紙媒体のみご利用いただけます

会期中のイベント 詳細と申し込み方法は公式サイトでお知らせします

学芸員によるギャラリートーク | 当日先着35名

3月18日（土）、4月15日（土） 各回11:30より（11:15エントランスホール集合）

キュレーターズ・トーク | 当日先着35名

当館学芸員の中村萌恵が、本展巡回先各館の学芸員とともに会場をご案内します。

5月20日（土）**鈴木一生** 氏（ふくやま美術館）

6月10日（土）**藤原啓** 氏（宇都宮美術館） 各回11:30より（11:15エントランスホール集合）

講演会 | 要事前予約、定員35名

鈴木理策 氏（写真家、東京藝術大学美術学部先端芸術表現科教授）

5月13日（土） 13:30-15:00 「**知覚の感光板**」について

レストラン特別デザート | テーブル予約推奨

オレンジ香るミモザケーキ 税込700円

アンリ・マティスが南仏で制作した切り紙絵《ミモザ》にちなみ、
イタリアの伝統菓子「ミモザケーキ」をアレンジしました。

ミモザ割 | 窓口でスタッフにお申し出ください

3月中、ミモザイエローのお召し物でご来館の方は、入館券ご購入時にご本人様分の代金より200円引きいたします。



図版掲載をご希望の方へ

貸出図版を下記よりダウンロードいただけます。

https://www.artpr.jp/kawamura_dic_museum/nanfutsu

- * 作家名・タイトル・制作年・所蔵者名および著作権クレジットを必ず明記してください。
- * 発行前にPDFで記事のレイアウトをお送りください。掲載内容の正誤確認をいたします。
- * 発行後、紙媒体は掲載物（又は表紙と掲載頁のPDF）送付を、ウェブは公開URLの通知をお願いします。

取材お申込み・お問い合わせ先

DIC川村記念美術館 tel.043-498-2672

広報担当：海谷、小林、山崎 press@kawamura-museum.com

学芸担当：中村